

I 生涯学習社会における人づくり

1 思いやる力やたくましく生きる力を身に付ける自分づくりへの支援の充実

① 魅力ある生涯学習の環境整備

取組1 県立社会教育施設的环境整備															
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 県立図書館の再整備を進めるため、基本・実施設計を基に収蔵館の改修工事を進めるとともに、今後改修工事を行う前川國男館の機能を検討した。 県立社会教育施設の老朽化対策のため、県立歴史博物館においてエレベーター更新工事の実実施設計や県立生命の星・地球博物館の設備改修工事を実施した。 														
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化や収蔵スペース狭隘化^{あい}の課題に対応し、今後の県立社会教育施設の適切な施設運営を図るため、計画的に対策を講じ、引き続き、着実に環境整備に取り組む。 														
取組2 県立社会教育施設における生涯学習事業															
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 県立社会教育施設において、展覧会を開催するとともに、「画僧祥啓の生涯とその絵の魅力」などの展示に関連した公開講座や県内学校への出張講座など、各施設の特色を生かした教育普及活動を実施した。 <p>【県立社会教育施設における展示・講座内容】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>展示・講座名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県立図書館</td> <td>講座「Lib活：県民が編むかながわの半世紀」ほか</td> </tr> <tr> <td>県立川崎図書館</td> <td>ものづくりギャラリー展示「家庭用ゲーム機の技術展」ほか</td> </tr> <tr> <td>県立金沢文庫</td> <td>特別展「金沢文庫の肖像」ほか</td> </tr> <tr> <td>県立近代美術館</td> <td>「葉山館20周年記念100年前の未来：移動するモダニズム1920-1930」ほか</td> </tr> <tr> <td>県立歴史博物館</td> <td>特別展「あこがれの祥啓」ほか</td> </tr> <tr> <td>県立生命の星・地球博物館</td> <td>特別展「かながわご当地菌類展」ほか</td> </tr> </tbody> </table>	施設名	展示・講座名称	県立図書館	講座「Lib活：県民が編むかながわの半世紀」ほか	県立川崎図書館	ものづくりギャラリー展示「家庭用ゲーム機の技術展」ほか	県立金沢文庫	特別展「金沢文庫の肖像」ほか	県立近代美術館	「葉山館20周年記念100年前の未来：移動するモダニズム1920-1930」ほか	県立歴史博物館	特別展「あこがれの祥啓」ほか	県立生命の星・地球博物館	特別展「かながわご当地菌類展」ほか
施設名	展示・講座名称														
県立図書館	講座「Lib活：県民が編むかながわの半世紀」ほか														
県立川崎図書館	ものづくりギャラリー展示「家庭用ゲーム機の技術展」ほか														
県立金沢文庫	特別展「金沢文庫の肖像」ほか														
県立近代美術館	「葉山館20周年記念100年前の未来：移動するモダニズム1920-1930」ほか														
県立歴史博物館	特別展「あこがれの祥啓」ほか														
県立生命の星・地球博物館	特別展「かながわご当地菌類展」ほか														
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> 県立社会教育施設においては、県民の多様なニーズに応じ、各施設の特色を生かした教育普及活動を実施することで、引き続き県民の学びや学び直しの機会を提供していく。 														
取組3 ふれあいの村の環境整備															
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 施設利用者の利便性向上のために、老朽化した施設設備や備品を更新した。 <p>【ふれあいの村の整備内容】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>主な内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県立足柄ふれあいの村</td> <td>管理棟ボイラーの更新、中央監視装置の更新、トイレ洋式化等</td> </tr> <tr> <td>県立愛川ふれあいの村</td> <td>2段ベッドの更新、浴室天井塗装の塗り替え、大型厨房機器更新等</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 愛川町の指定避難所として活用できるよう、県立愛川ふれあいの村体育館の耐震補強工事の実実施設計を行った。 	施設名	主な内容	県立足柄ふれあいの村	管理棟ボイラーの更新、中央監視装置の更新、トイレ洋式化等	県立愛川ふれあいの村	2段ベッドの更新、浴室天井塗装の塗り替え、大型厨房機器更新等								
施設名	主な内容														
県立足柄ふれあいの村	管理棟ボイラーの更新、中央監視装置の更新、トイレ洋式化等														
県立愛川ふれあいの村	2段ベッドの更新、浴室天井塗装の塗り替え、大型厨房機器更新等														
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化した施設設備や備品について計画的に更新等を行い、利用者の利便性を高めることで、利用者満足度の向上を図り、利用拡大につなげる。 														

② 実践的防災教育の推進

取組1 児童・生徒を対象とした防災教育の推進	
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒が災害時に自助・共助ができる資質を育成するため、県立学校で生徒等を対象とした災害図上訓練D I G¹を実施したほか、実践的防災訓練等に係る指定校においてAR技術を活用した防災教育や宿泊を想定した防災訓練を実施した。
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、県立学校で生徒等を対象としたD I GやAR技術を活用した防災教育、宿泊を想定した防災訓練を実施するとともに、「実践的防災訓練事例集」を配付し情報提供を行う。
取組2 防災教育の指導力の向上	
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 県立総合防災センターで災害疑似体験を行うなど、県立学校の防災教育担当教員を対象とした「防災教育研修講座」やD I G研修を実施した。
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、県立学校の防災教育担当教員を対象とした「防災教育研修講座」及びD I G研修を開催する。

③ 人権教育の推進

取組1 人権教育の推進	
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 県及び市町村教育委員会の教職員や指導主事など人権教育指導者を対象とした研修会を、災害発生時の人権課題など今日的なテーマに対応した人権課題を設定して実施した。 人権教育推進のための指導資料を作成・活用し、研修会等で指導主事や教職員が演習を実施した。 人権教育に関する指導方法を改善・充実するとともに、研究成果を人権教育に反映させることを目的として、公立小・中学校（政令市を除く）各2校と県立高校・県立特別支援学校各1校を研究校とし、三浦市を総合推進地域として研究委託事業を実施した。
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き国の施策や学校で生じている課題を踏まえて、啓発資料の作成や研修を実施する。 児童・生徒が豊かな人権感覚をより一層養うことができるよう、学校教育活動のあらゆる場面で引き続き人権教育を推進する。
取組2 生命（いのち）の安全教育の推進	
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 生命（いのち）の安全教育が定着するよう、会議や研修会等で性に関する指導の手引きの活用を働きかけるとともに、全県指導主事会議の部会で協議するなど、市町村教育委員会と連携して取り組んだ。 各校が取り組んだ生命（いのち）の安全教育の実践事例を県ホームページで周知した。
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> 生命（いのち）の安全教育の定着に向けて、引き続き市町村教育委員会と連携して、発達段階に応じた指導について、情報共有するとともに、課題を検討する。 学校が生命（いのち）の安全教育に取り組みやすいよう、様々な場面に応じた実践事例や教材について、会議や研修会等で共有する。

¹ 災害図上訓練D I G

参加者が、大きな地図を囲み、書き込みと議論を行うワークショップ型の災害図上訓練。災害（DISASTER）、想像力（IMAGINATION）、ゲーム（GAME）の頭文字をとってD I G（ディグ）と名付けられている。

④ 読書活動の推進

取組1 読書活動の推進	
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 「第四次神奈川県子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動を推進するため、生涯学習指導者研修における読書活動実践コースや「子ども読書活動推進フォーラム」を開催した。 「かながわ子どものためのブックリスト」を生涯学習指導者研修や生涯学習課主催の会議で紹介したほか、中学1年生の保護者を対象とした「家庭教育ハンドブック すこやか」に、中学生向け抜粋版を挟み込んで配付した。 令和6年4月以降の子ども読書活動推進に関する計画として、「第五次神奈川県子ども読書活動推進計画」を策定した。
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書量が増加するよう、引き続き、家庭、地域、学校等、専門・関係機関及び団体等による子どもが読書に親しむための様々な取組を進める。 「かながわ子どものためのブックリスト」を会議や研修等の機会を利用して周知する。 多様な子どもたちの読書機会の確保や、デジタル社会に対応した読書環境の整備、子どもの視点に立った読書活動を推進する。

2 社会とかかわる力を身に付ける自分づくりへの支援の充実

① 「シチズンシップ教育²」の更なる推進

取組1 小・中学校における政治的教養を育む教育の推進	
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 実践協力校（横須賀市立小学校1校、逗子市立中学校1校）を指定し、授業研究を実施するとともに、その授業を指導事例集に掲載し、ホームページなどで広く周知した。 実践協力校の小学校では、横須賀市教育委員会と連携し、学校全体で年間を通して計画的な取組を行うとともに、学校運営協議会の協力を得ながら、挨拶運動や地域を巻き込んだ創立20周年を祝う行事を行った。 実践協力校の中学校では、逗子市教育委員会と連携し、国会議員等を講師とした、生徒が政治について考える授業を行った。
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> 実践協力校（公立小学校2校、公立中学校1校）において、引き続き、年間の教育活動を通して、学校全体で学年間のつながりを意識して実践していくとともに、高等学校を含めた地域との連携・協働等を取り入れて実践し、その結果を周知・共有する。
取組2 実践的なシチズンシップ教育の実施	
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 成年年齢引下げを踏まえ、県立高校等において、消費者教育資料を活用し、契約の重要性や消費者保護のしくみなどを学び、消費者トラブルを避ける方法についてロールプレイを行うなど体験的な学習を実施した。 県立高校では、金融機関の協力のもと、専門家によるライフプランニングや資産形成等に関する出前授業を実施した。 県立特別支援学校では、高等部の生徒がキャッシュレス支払いのロールプレイを行うなど、より実践的・体験的な学習を通して、身近な消費生活における課題や対処方法について学んだ。
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> 成年年齢引き下げ等を踏まえ、シチズンシップ教育全般において、引き続き、企業などの外部人材との連携を強化し、実践的な学習を行う。

2 シチズンシップ教育

積極的に社会参加するための能力と態度を育成する実践的な教育として、本県では、キャリア教育の一環で平成23年度からすべての県立高校等で実施し、令和2年3月からは「法に関する教育」「政治参加に関する教育」「経済に関する教育」の3領域と、それらに共通してかかわる「モラル・マナーに関する教育」に整理している。

取組3 県立学校における政治参加教育	
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程研究開発校（シチズンシップ教育に係る研究）において、総合的な探究の時間等を活用して、地域の大学や企業等と連携し、社会課題の解決に向けた取組を行った。 ・ 県立高校では、県選挙管理委員会及び税務署と連携して、選挙及び租税を横断的に扱う出前授業を実施した。 ・ 県立特別支援学校では、生徒会選挙などの身近な選挙を通じた学習や、外部講師の活用など、各校の実情にあわせた政治参加教育を実施した。
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立高校では、県選挙管理委員会と連携し、選挙についての出前講座を行う機会を増やし、生徒の意識啓発を図る。 ・ 県立特別支援学校では、引き続き啓発資料や事例集を活用するとともに、生徒会選挙などの機会をとおして指導する。

3 生涯にわたる自分づくりの推進に向けた協働・連携の拡大・充実

① 「かながわ教育ビジョン」の着実な推進

取組1 かながわ人づくりコラボ ³ の開催とかながわ教育月間 ⁴ の取組	
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「え！？今の高校はこんなことやってるの！？～生徒・教師のチャレンジ～」をテーマに「かながわ人づくりコラボ2023」を開催した。新たにアーカイブ配信を行い、参加者は過去最多の483名となった。 ・ 県民の教育に関する理解と関心を高めるため、「かながわ教育月間」を設定し、期間中に実施された教育イベントの周知を行った。
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ より県民が参加しやすく分かりやすい「かながわ人づくりコラボ」にするため、ライブ配信と併せてアーカイブ配信の実施、時宜にかなったテーマ設定及び若者が参加しやすいプログラムや周知方法等を検討する。 ・ 県民の教育に関する理解と関心を更に高めるため、ホームページ等既存の媒体に加え、SNSを積極的に活用し、「かながわ教育月間」を周知する。

有識者の意見

【大柱全体を通して】

- 施設などハードウェアでは施設の老朽化対策を進めると同時に、これを契機にさらなる魅力化を図ろうとする工夫がもう少し欲しいところである。ソフトウェアについては、県立図書館の展示・講座には魅力化を図ろうとする姿勢が読み取れ、児童・生徒対象事業では防災・人権・生命（いのち）の安全教育・読書活動に係る事業・シチズンシップ教育など重要課題を継続的に推進している点が評価できる。

【中柱1-①について】

- 県民が安心して利用するには、各施設の修繕は必要であるので計画的に実施してほしい。また、老朽化を契機に、施設環境の高度化など新たな魅力づくりを図ることに注力してほしい。

³ かながわ人づくりコラボ

「かながわ教育ビジョン」の推進を図るため、テーマに沿った基調講演や学校の実践紹介等を基に、県民の方々と教育論議を行い、これからの「かながわの教育」について、共に考える場として「かながわ教育月間」中に開催。

⁴ かながわ教育月間

「かながわ教育ビジョン」で掲げた理念の実現に向け、県民一人ひとりに、スポーツ・文化を含めた教育への関心や参加意識を高めていただくことで、協働・連携によるかながわの人づくり・自分づくりを進め、かながわの教育をより一層推進する契機とするため、教育に関する取組を集中的に開催する期間。10月1日から文化の日（11月3日）までの34日間。平成28年4月に設定。

【中柱1-②について】

- 昨今自然環境の変化に伴う豪雨などの異常気象や、首都直下型地震が発生すると予測される中で、こうした災害への実践的な取組が必要だといえる。特に、D I G研修の成果が認められることから高く評価できるので、今後もさらなる拡充を図ってほしい。公立学校は周辺地域の避難場所に指定されている場合が多く、県立高校という枠に留まらず、広く地域住民や企業などと連携しながら、児童・生徒に防災教育を施す必要がある。

【中柱1-③について】

- 人権教育の研修によって、具体的にどのような成果があったのか不明なのが残念だ。また、研究校については、研究成果を県内で広めることにも力を入れてほしい。

【中柱1-④について】

- 「子ども読書活動推進フォーラム」を長年行っているが、広がりを感じられない。読書は幼い頃からの習慣付けが大切である。「かながわ子どものためのブックリスト」を積極的に活用するなど、民間と協力して児童・生徒への具体的な取組を増やすことが求められる。

【中柱2-①について】

- 小・中学校における実践協力校は2校と少ない中での取組であるが、その取組や成果を広く県内に浸透させる必要がある。多くの学校で児童・生徒が政治についてもっと手軽に関われるような取組が必要である。

また、シチズンシップ教育については、成年年齢の18歳化に伴い、さらなる充実が求められるが、そうした重要性に応じた施策が展開されており、専門家の出前授業などは評価できる。今後も職種や分野などその幅を広げ、学校によって差がないような仕組みにしてほしい。

【中柱3-①について】

- 「かながわ人づくりコラボ」参加者数が過去最高になるなど高く評価できるが、「かながわ教育ビジョン」の一般県民への周知が不足しているため、イベントだけでなく日常的な周知を考えるべきである。